

【第6期】 第4回 安曇野市障害福祉運営委員会（令和5年度）会議概要

1	審議会名	第4回安曇野市障害福祉運営委員会
2	日 時	令和5年11月15日 午後1時30分から午後2時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 会議室301
4	出席者	小川原哲会長、竹澤一弘副会長、平林洋樹委員、高橋喜博委員、尾曾ほかり委員、荻野夕子委員、西澤泰彦委員、長坂智恵子委員、片岡啓之委員、荷見弘美子委員、小林紳一委員
5	市側出席者	太田障がい者支援課長、（支援給付担当）田崎課長補佐、草間係長 宮澤係長 （障がい福祉担当）古畑係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年11月15日

協 議 事 項 等

◎会議概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ 小川原会長
- 3 協議事項 設置要綱第6条第1項に基づき、小川原会長により進行。

第3回安曇野市障害福祉運営委員会では以下の内容について協議した。

（1）第4期安曇野市障害者基本計画案について

事務局より説明。

<意見・質疑>

委 員：支援を受けている者が、支援を行う職員の人事異動等で替わってしまうと再度の信頼関係を構築するのに相当な時間を要してしまう事がある。

したがって、計画案25ページの第3章障がい者支援における課題の中に「市においては、異動や体制変更などによる相談支援担当者の部署替えがありますが、障がい者と相談支援者とが互いに築き上げてきた信頼関係や繋がりが考慮されないとの指摘があり、改善が課題です」と41ページの相談支援体制の強化の現況と課題に「障がい者と相談支援担当者との繋がりの連続性を重視します」を追記してほしい。

委員長：同じ支援者が継続して支援を行い、関係が継続して築けていく事は一番望ましいということと考えているが、組織に属している限り、人事異動等で担当者が替わることはやむを得ないと思う。

しっかり引き継ぎをして次の人支援者へのバトンの受け渡し等がしっかりして欲しいということではよろしいでしょうか。

委 員：支援者の異動により、再度の信頼関係の構築は難しく、支援者が異動したことにより計画していたことが進まなくなってしまった事があった。

委 員：支援員が替わることにより、関係が途切れてしまうことはあるが、支援員の引き継ぎ、記録を残してしっかり対応している。

再度の信頼関係の構築が難しいことは理解できるが、どこの施設・団体でも非常に難しい課題とも考えている。

事務局：ご意見に対し、47ページ精神保健の推進において、7行目の赤字で記載している「より継続的で」という表現を加えさせていただいた。

委員長：この計画は、障害者基本計画であり個別の問題に対して詳細を掲載するのではなく、この基本計画を基に個別の計画と考えているものと考えている。したがって、障害者基本計画にそのような課題を記載することは困難な事と考えている。

委員：1人の支援者がずっと継続して支援して欲しいと言うことではなく、支援者との「繋がりと連続性」が必要と考えているため、その言葉を障害者基本計画に取り込んでいただきたいと考えている。

委員長：そのようなご意見があるので、事務局は検討されたい。

(2) 第7期安曇野市障害福祉計画案、第3期安曇野市障害児福祉計画案について

事務局より説明。

<意見・質疑>

委員：63ページの地域生活支援拠点等が有する機能の充実の表内に、地域生活支援拠点等の数が1となっているが、これは事業所数と捉えていいのか。

事務局：前の62ページで、面的整備と記載されており、松本圏域内に1か所という意味である。

委員：面的整備であれば1か所というのは理解できるが、分かりにくいので箇条書きで事業名の記載があった方が良い。

事務局：検討したい。

委員：65ページ「相談支援体制の強化」内に「障がい者と相談支援者との繋がりとは、それが障がい者にとっての支えであり、心の資源と理解し、途切れないように留意します」と76ページ相談支援に「体制変更や異動などによる相談支援担当者の部署替えに関しては、事前に障がい者とその家族の希望を聞き、また、相談支援者との意見を踏まえ、それらを尊重して実施します」を追記して欲しい。
支援者との切れ目のない体制を望んでいます。

委員：施設内の支援員は多くの対応を行っており、一人の障がい者に対して同じ支援員により支援を継続することは物理的に不可能だ。
したがって、今の2件の追記は必要ないと考える。

<以後、意見・質疑共になし>

(3) その他について

事務局からパブリックコメントの日程、第5回安曇野市障害福祉運営委員会開催等について説明。

以上